

第2回区民が取り組む環境エコ部会

日 時 平成20年10月22日（水）午後6時

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

（1）委員 10人

菊地弘毅、木島千栄、須山令子、田辺富夫、富田順人、長島亨、長谷川幸子、原田歩、藤岡玲子、古川博子

（2）関係者 1名（かわさき地球温暖化対策推進協議会）

牧野紘之

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

本日は、専門部会関係者ということで、川崎市区民会議条例第8条に基づき、かわさき地球温暖化対策推進協議会グリーンコンシューマーグループの牧野様に出席をいただいている。牧野様には、課題の選定や具体的な解決策の決定の際に、アドバイス等をいただければと思っているので、よろしく願いしたい。

2 議 題

（1）課題について

部会長 それでは議題の1番、課題の検討を行いたい。

事務局より資料の説明をお願いしたい。

事務局 <配布資料に沿って説明>

部会長 前回の部会でテーマを決めるに当たり、各委員からさまざまな意見をいただき、その要旨が資料に掲載されている。背景にある課題について改めて説明していただきたい。また、前回言い忘れたとか、前回以降にこういうことを考えたものでも構わない。前回の会議では課題と解決策の話がまざり込んでいた。まずは元になる課題を一つ一つ共有したいと思う。それがまとまったら解決策を別に審議したい。

委員 前回の温暖化の関係のプレゼンをした。環境局が、平成19年度大気汚染状況のデータを出している。いくつかある観測局のうち、川崎区では池上新町の観測局が基準値に満たないというデータがある。環境局企画指導課に聞いたところ、産業道路は企業の車

が多いが、池上新町付近でそういった車をなるべく少なくするなど、環境を改善するために必要なことを区民会議の中で審議していただければありがたいという話があった。このため I T を使った交通網の取り組みという提案をした。

もう 1 つ多摩川の水質の関係。確かに今、アユが 80 万匹遡上しているというデータがあるが、地球温暖化阻止のためには、もっと水質をきれいにしなければならないという問題意識があって、例えば水質汚染で一番問題になっているのが、工場の排水やバルブ栓の閉め忘れ、設備の劣化による油の流出などがある。それ以外に家庭で出る油や残飯も含めて、そういったものが水を汚染しているというデータがある。

確かにアユが遡上している多摩川だが、もっときれいにするためには何が必要かということを考えてところ、前回戸田の例を出したが、戸田の競艇場でイケチョウガイという貝を沈めて水を浄化している実例がある。こういったことを川崎区でもできないかと思ひ、提案した。

川崎市には多摩川のエコプランというのがある。多摩川エコミュージアムという N P O は非常に熱心に取り組んでいて、多摩川での水遊びなどの取り組みをしているが、本当の意味での川の水質浄化という取り組みは、まだされていないのではないかという思ひがあり、川崎区としてそういったことができないかと思った。

もう 1 つ資金調達というのは、区民会議でそういうことをするかはまた別問題だが、例えば地域で、町内会なども含めて、地域環境ファンドのようなものをつくる。川崎信用金庫などに運用してもらって、企業も巻き込んで資金をプールして、環境を良くするための資金として使う。ファンドで利益が得られた分を出資した町内会や学校、 P T A などに還元していくと取り組みができれば、もっとやる気が起きるのではないかと思ふ。皆さんの環境に対する意識が向上するという意味合いもあると思ふ、提案した。

部会長 課題としては、空気が悪いということと、多摩川の水質が悪いということか。

委員 池上新町のあの場所は以前いろいろと調査をして、1 車線壊してグリーンベルトを作った。その後については、私たちも地元だが余り聞かない。

委員 データでは出ている。

委員 地元の人と直接その問題を話したことは余りないが、前よりは良くなっている。

委員 ずっと良くなっている。そのためにあそこは工事していただいた。

部会長 その辺をまた区民会議で調査審議するか。

委員 余り広げて難しいことを言っても、取り組む段階で難しくなると思う。やる気をなくしてしまっても仕方がない。もっと身近で具体的なことをやったほうが良いと思う。

部会長 学校と連携して取り組むという意見が出ているが、これに関してはどうか。

委員 私の地域では、前回も話の出たペットボトルのキャップをスーパーで回収しているし、小学校でも集めている。そういうことなら誰でもできる。前回の「地域見守り看板」と同じで、全員が応援してくれるかと思い、提案した。

部会長 そういうことを通じて子どもたちに、環境に対する認識や考え方、参加することを教えられる。

事務局 エコキャップについて廃棄物指導課に確認をしたところ、家庭から出るものは一般廃棄物として扱い、市が収集に責任を持つことになるとのこと。処理計画を立てて処理しており、キャップを別に販売する流れにはなっていないと。また企業が出すものは産業廃棄物として、これを回収する場合は免許が必要になる。

中原区役所で現在もペットボトルのキャップを集めているが、これは特殊な例に当たる。回収業者が収集運搬したキャップを、横浜にあるNPO法人が換金している。そのお金をJCVの日本委員会という、世界の子どもにワクチンを届ける機関に渡し、そこからユニセフへお金が渡るといふ流れになっている。

この回収業者がNPO法人の子会社のような形になっているので、キャップを無料で回収してくれるとのこと。したがって、別の会社に回収をお願いすることになると、回収費用がかかってしまい、キャップを売った以上の回収費用がかかってしまう。これが果たして環境に優しいものなのか、疑問に感じる。

法律上の問題もある。換金をしているNPOは、横浜市から廃棄物処理業者の許可を受けていない。個々に参加している業者は横浜市から廃棄物処理業者の許可を取っているが、それを取りまとめているNPO法人としては許可を受けていないとのこと、これについても違法と判断される可能性もあるという見解だった。

ペットボトルのキャップを各小学校で集めて、それを回収することになると、市から免許を取った回収業者が集めざるを得ず、当然無料では回収できない。回収費がキャップの売却額を上回ってしまうのであれば、運搬するにはガソリンを使ってCO₂も排出するわけなので、かえってエコに逆行するのではないか。そういう意味で、やはり問題があるのではないかというのが廃棄物指導課の見解だった。

では、最終的に売るものだから有価物だということで役所に持ってきた場合、ごみと

して扱われないのではないかという話を投げかけたところ、販売額が輸送費用を下回ってしまう場合は、ごみとして認定するとのことだった。

したがって、費用をかけて、CO₂を排出して回収するのだったら、直接ワクチン代としてお金を渡してしまえばいい話であって、そこまで苦勞してお金をかけてやる意味があるのか、疑問を感じざるを得ない。

ちなみに、キャップは800個集めて2キロになる。2キロで20円になり、それが1人分のワクチン代ということなので、相当の数を集めないといけない。

部会長 海風の森をMAZUつくる会のメンバーの人が市の体育館に運動をしに行っているが、あそこには月2回、横浜の業者が収集に来るそうだ。キャップを持っていくと、何点と換算して証明書が発行されて、その分がワクチンに変わるとのこと。

ただ、1カ所だから回収に来るが、それを学校単位でやったら20~30カ所になる。果たして無料で回収してくれるのか。区民会議が取り上げてやり始めて、途中でこういった問題があるとなった場合、集まったものの処理も、ブレーキをかけるのも大変。僕は積極派だったが、いろいろな意見を聞くと、もう少し問題が整理された段階取り組んでも遅くないと思う。

夏だけでなく、1年を通じてのエコの取り組みという意見が出ているが。

委員 前回ゴーヤーの話が出て、あれは夏だけで終わりなので提案した。ゴーヤーも含めて、草や木を大切にしておエコの実現を図るなど、大きなテーマを出す必要があると思う。家庭でできるエコ対策ということで、節水、電気、ガスなど、考え方によっては、気配りひとつでエコも家庭からできる。

それから、何回か話に出ている、子どもの見守り看板。今でも各町会の掲示板等に張ってある、ああいう長続きをするものが、お金をかけなくて一番良いのでは。そういったお金をかけず、町中の意識の改革ができれば良いと考えている。

部会長 意識改革を図るために、エコに関心を持ってもらうためのものを1年を通してやればいいと。

委員 そう。ポスターなり何なり、いろいろやれば良いと思う。

委員 今の話と通ずるところがあるが、今、小学校や中学校でもいろいろな環境教育がされていて、多分皆さんが思っているよりも、子どもたちは情報も持っている。それなのに、家庭の意識が足りないと思う。

川崎区は7区の中で一番緑が少ないので、本当は各家庭でももう少し環境に対する興

味や危機感を持ってもいいと思うのだが、そういった家庭は少ない。環境問題に取り組む姿勢が家庭から出てくれば、空気や水などに対する関心も高まると思う。イベントなりを通じて、意識高揚を図っていけば良いと思う。

委員 いろいろな方向から取り組み方があると思う。私は医師会と保険医協会に所属しているが、医師会は大分前から健康福祉局と一緒に気管支ぜんそくの調査として、排気ガスやNO_x、亜硫酸ガスなどを調べている。保険医協会でも同様に、神奈川県下のNO_xと亜硫酸ガスの調査を、もう何十年もやっている。水質に関しても、毎年ハゼの調査を20年以上やっている。水質が悪いとハゼに奇形が出る。それも結果が出ると、新聞で発表している。

そういった団体でやっているもの以外に、私が今一番危機感を持っているのは水と食料の問題。テレビでもやっていたが、食料危機の問題は差し迫っていて、実際に戦争状態になっているところもある。我々が小学生のころは、学校のグラウンドでサツマイモを作っていた。プランターでもいいから家庭菜園をやると、CO₂の問題にも、食料問題にも関連があるので、良いのではないか。私もやっているが、ナスなど作ると幾らでもとれる。

20年以上前に二子玉川へ行ったときのことだが、中性洗剤の泡がすごいで驚いた。石けんが一番優しいので、石けんを使えという運動をやっているところもある。私は、家族全員とは言わないまでも夫婦ぐらいは石けんを使うようにしている。小さなところからでもできることがあるので、そういったことに取り組むのも良い。

区民会議の取り組みに協力できる団体は、医師会のような大きな団体だけでなく、老人会、町内会、婦人会、小学校などもある。私は数年前から小学校で毎年食育の問題を講義している。食育の問題は、廃棄物などの環境問題とも関係ある。

このように1つの成果を出すためにも、いろいろ方面からの取り組みがある。データを取って、どのくらいの成果が出たかということが分かれば、みんな喜んでやってくれるのではないか。患者さんでも、糖尿病のデータが良くなると、喜んでどんどん良くなる。

委員 緑を大切にするという課題から言うと、今ある街路樹を大事に育てることも、1つの仕事ではないか。この辺にあるケヤキにはつりをしてあるが、すっかり食い込んでしまっていて、はさみで切ってやりたい感じになっている。あれを直さないと、木には非常に苦しい思いをさせるし、環境にも良くないと思う。あれを何とかしてやったらいいのでは。

それに、歩道と車道の間植え込みの手入れが行き届いていないために、ごみを捨てられてまちを汚くしている場所がある。きちっと植木の手入れをしていけば、捨てにく

くなるのでは。また学校や競馬場の脇など、人の少ないところはゴミが捨てられやすく、まちを汚くしている。そういうところに立て看板を立てたり、その植え込みはいつもきれいにしておくことで、金がかかるだろうが、まちも非常にきれいになると思う。

市立川崎高校のそばも、きれいになったと思えば、翌日にはゴミが捨ててある。しっかり取り締まるなど、何とかしなければならない。またその植え込みにはツツジが植わっているのだが、ほかの木の方が大きくなってみっともなくなっているので手入れが必要だ。そういった現在あるものを大切にすることもいいと思う。先ほど話が出たように、いろいろな団体にこの問題を投げかけて、皆さんに関心を持ってもらうようにすれば良いのでは。

部会長 既存の街路樹や植え込みの手入れが足りず、逆にまちを汚くしていて、それに加わえてゴミを捨てられるような状況が大きな問題点と。

委員 ごみの問題も、先ほどの話にもあったが、食料の問題にも関係してくると思う。まだ食べられるものが結構捨ててある。それに分別はしない、日曜日に出す、放火はされる。そういった問題意識があり、前回提案した。ごみの問題はCO₂などエコと関係がある。みんなが気をつけてゴミを少なくする運動が大事だと思う。

部会長 区内の緑を増やすという意見が出ているが。

委員 第1回の全体会議のときに、古くから川崎区に住んでいる方々から出た意見の中で共通していたのが、川崎市のイメージとして公害のまちというのが強かった。それを聞いて、新しく転居してきた人にとってはそうでもないという発言をしたが、見た目に緑や花を増やすということで、イメージが変えられるのではないかと考えた。第1期区民会議ではハゲイトウでまちを美しく彩って好評だったと聞いているので、それを継続性を持った活動にする。緑と花で川崎区が変わってきたということを見せていけば、古くから住んでいる方々にも一緒にやっていただけないかという考えで提案した。

部会長 長く住んでいる人は、公害のまちというイメージが強く染み込んでしまっているから、それを払拭するということか。

一通り意見が出た。事務局から課題の例示があるとのことなのでお願いしたい。

事務局 <資料2に沿って課題の例示について説明>

部会長 今出ている課題は、大気や水質の汚染を改善する必要がある。環境対策のための

資金が足りない。環境に対する市民の関心が低い。各家庭単位から通年でエコに取り組む必要がある。市内で一番緑が少ない。子どもの環境教育が家庭で生かされていない。水と食料の安全が確保されていない。身近な環境をもっと大切にする必要がある。まちのイメージが悪い。良い点をもっとアピールする必要がある。企業と連携した環境の取り組みが必要。何か別の課題があるということがあればご意見をいただければ。

委員 課題として出ている中で、環境に対する市民の関心と、子どもの環境教育が家庭で生かされていないという課題、身近な環境をもっと大切にというものは、環境に対する市民の関心が低いという点で共通している。大切なポイントだと思う。

委員 川崎区は7区の中でも企業と一番接しているところが特徴的。企業はすごく環境問題に敏感でアピールしたがついている。ゴミの分別もしっかりやっている。それをもう少し区民の人たちに広めては。

委員 アピールの必要はある。

部会長 それらを1つにすると、例えば企業見学をするなどの形で、解決策として出てくると思う。環境の低さを改善するために、花や何かを植えましょうという以外に、企業が実際にやっている現場を見学するなどが考えられる。

部会長 企業見学のツアーは環境局、地域振興課などで結構やっているが、一部の人が、2回、3回行っているという話がある。

地域や家庭での環境意識の向上を、1つテーマとして取り上げるということで良いか。

委員 環境意識向上のために、教育や啓発が必要。

部会長 やろうと思ったら、すぐに取りかかれる問題。多摩川を抱えているのは川崎区だけ。長期的・継続的な課題としては、多摩川の水というテーマでも良い。例えば、1カ月に一回だか、多摩川の清掃をやっているグループが、大師河原水防センターの管理を任されている。例えば多摩川の清掃をもう1回増やそうという話になったときに、子ども会などに声をかけるとか。区民会議で取り上げる課題のうち1つくらいは、長期的な問題に取り組んで良いと思っている。

区内の川というと多摩川以外にあるのか。

事務局 川崎区は多摩川だけ。

部会長 課題としては、的確に多摩川の水の浄化と設定してもよいのではないかと。

事務局 前回、イケチョウガイを多摩川に放流して水質を浄化するという提案があった。試みとしては良いが、川は常に流れているので効果が見えにくいということがある。また、あれだけの規模なので、取り組みとして大き過ぎるという印象だ。

具体的な課題解決策の話になるが、ビオトープを作っている学校が区内には6カ所ほどある。ビオトープは水が流れていないので、汚れている。学校とは未調整だが、例えばそこに貝をまいて、モデル的に水質を半年とか1年かけて子どもたちに調べさせると、環境教育にもつながり、環境浄化にもなるので良い取り組みではないかと思う。

環境局に問い合わせたところ、手軽に水質を調べるキットを無償で配布するとのこと。身近なところからモデル的にやるのも手ではないか。

委員 4～5年前だが、まちづくりクラブで小田公園の横にビオトープをつくってほしいという嘆願を出したら、蚊が発生して大変なことになると反対された。

部会長 区内の川といったら多摩川しかないのだから、多摩川の清掃や、干潟にいる生物を使って子どもたちに興味を持ってもらう。あそこにはカニやトビハゼなどいろいろ住んでいる。

僕は海風の森にビオトープを作って一応成功しているので、藤崎小学校でビオトープを作る際に、先生から依頼があって、いろいろ立ち会った。小田小学校でも、ビオトープを作っているところを見に行ったら。金魚がいて、ガマノホを植えたところは水がきれいだったが、立派なほうのビオトープは植物を植えていないから、アオコが繁茂してしまっていた。植物が生えていけば水がきれいになると、明らかにわかった。

田島にある公害研究所では、細かい水質検査を全部やってくれる。海風の森も、検査の結果子どもたちが入っても安心だということで、ビオトープを開放することにした。

例えばイケチョウガイを放したら実際水がどうなったかも、調べてもらうことができる。それで子どもたちが興味を持つかもしれない。だから長期的な視点の課題を1つ設定して、あと2つか3つ決めてはどうか。

委員 海水がまじって生育できる貝として、バカガイ、オオノガイ、ハマグリ、マテガイ、アゲマキといった貝もあるそうだ。

委員 私は昔、漁をやっていた。二十歳ぐらいまでは、ノリ、アサリ、バカガイなどを獲っていた。今は砂浜がなくなったので獲れないが、多摩川の河口あたりにはわいている

かもしれない。

部会長 今でもシジミはよく獲れる。

委員 砂浜があればわく。岸壁では無理。

部会長 まとめだが、例えば、地域や家庭での環境意識の向上を1つの課題とした場合、その解決策として、花を植えるだとか、街路樹などに関するものが考えられる。そしてもう1つ、企業との連携ということで企業見学をする。区民会議として適当な場所を選んで実施するという方策も出てくる。実際企業はいつでも来てくれと言っているわけだから。

委員 今、産業道路あたりの企業が率先してアイドリングストップをやっている。ああいった形で、車を持っている市民と協力し合うことはできる。小さいことだが、ほかにも委員からの発言もあったように、家庭での取り組みとして石けんを使おう、使い古しの油を直接流さないようにしよう、目の細かいネットを利用して残飯を直接川に流さないようにしよう、廃油を側溝に流さないようにしようなど、そういった取り組み方でも、水の浄化には関係してくる。実際に家庭でできることだ。

委員 専門的になるが、廃油でも石けんを作れる。

部会長 東京都のどこかの区がやり始めた。入り口に入れ物を置いて。

委員 川崎市でも石けんプラントで作っている。

部会長 今出たようなことを何かの形で市民に周知する。例えば子どもに言えば、子どもが父親と一緒に車に乗った際に「お父さん、エンジンとめなさい」などと言われれば、父親もそうかということになる。だから、今後子どもも巻き込むという方法を考えていけばいい。

委員 環境に対する意識向上のための啓発、教育を一つの課題として決めればいい。

委員 地域緑化の推進という問題も大事だと思う。

企業と連携した環境対策については、今は企業も環境については相当厳しく制約されてやっているので、環境問題についての見学をやればいいのかでは。

委員 我々は産業医という形で各企業に入っているが、それは社員の健康を守るため。排水や排気ガスなどは我々ではチェックできないので、そちらは役所のほうになる。

部会長 ではここで、課題を決定する前に、牧野さんにお話を伺いたい。

牧野氏 かわさき地球温暖化対策推進協議会の市民部会、グリーンコンシューマーグループの牧野です。

2004年3月、京都議定書を受けて、川崎市としても何とかしなければいけないということで、川崎市温暖化対策地域推進計画がつくられた。かわさき地球温暖化対策推進協議会はそれに基づいて設置され、市民、事業者、学校、行政の4部会で構成される。目標は、2010年のCO₂を、1990年に対して6%削減する。これは京都議定書の内容そのもの。市民部会は、ソーラー、省エネ、エコドライブ及びグリーンコンシューマーグループの4つにより構成されている。先ほど話の出たアイドリングストップは、こちらの部会でも取り組んでいる。

私が参加している部会の「グリーンコンシューマー」とは、環境のことを考えて買い物をする人のことをいい、その活動はグリーンコンシューマーをどんどん普及することで、エコショッピングやエコクッキング、一店一エコ運動を勧めている。

当部会の活動としては、環境学習支援ということで、環境意識を向上させるために出前講座をやっている。

川崎区地区女性連絡協議会の皆様を相手に、9月5日と10月3日に川崎区役所との協働で開催した。11月12日に3回目を行う予定。9月5日は田島支所で50名の参加があり、レジ袋の削減、一店一エコ運動、グリーンコンシューマーとは何か、などを紹介する出前講座を行った。10月3日は省エネグループが、家庭でできる省エネについて啓発活動を行った。蛍光灯と白熱型電球のどちらがエコかを皆さんとともに考えた講座。11月12日には、教育文化会館で40名の参加を予定し、エコクッキングを実施する。どういったものが環境に良い料理になるか、どういう片づけをしたらいいかなどを考える。

続いて、宮前区の西有馬小でことしの7月23日に行った例。川崎市役所主催で、6年生と5年生、150名ずつに対して出前講座を行った。環境に優しい消費者になるはどうしたらいいのかというテーマで、子どもたちに対して意識向上を図った。家庭で行うよりも、子どもたちに対して行うことがより家庭へ広がっていくのではないかと狙いから行ったもの。西有馬小以外でもいろいろなところで教育を行っている。

環境教育を通じて、子どもたちがいろいろな活動をやっていることが分かった。活動の内容を子どもたち同士で発言させて、いろいろなものを発信して、子どもたちの活動を支援していこうではないかということで、ことしの10月4日に子ども環境会議を行っ

た。主催はグリーンコンシューマーグループで、共催はモトスミ・ブレイメン通り商店街、後援は川崎市教育委員会、川崎市国際交流協会。中原区の6小学校がそれぞれ取り組んでいる環境対策活動を発表、意見交換し、子どもたちから大人への提案・宣言を行った。「私たちから発信！ 川崎子ども環境会議」ということで、「今と未来の私たちの環境をよくするために、私たちが取り組んでいる一人ひとりのエコ活動を広げて地球環境をよくし、ストップ！地球温暖化に取り組みます。みんなが協力して、平和な世界にしていきます。」という非常に心強い宣言。

一店一エコ運動について紹介したい。エコな活動をやっているお店は結構ある。買い物袋持参の方には、1回につきスタンプを1個押して、20個で100円引きます、など。我々はそういう活動を紹介して、皆さんがそういう店を大事にする。そういったところから環境の広がりをつくっていこうという活動。今、全市に展開中で、アゼリアの商店街、平和通り商店街、新城商店街その他で展開中。今現在、一店一エコで我々のところに登録していただいている店は100店舗を超える。

ついでながら、前回の部会を傍聴して、私なりに提案をまとめた。

「区民会議として、実際に出来ることに主眼的に置く」「時間を要するものは、骨太の施策として、時間軸を立てて計画的に進める」「予算が必要な事案は、市環境局と連携し、予算措置を検討する」「環境活動の活性化を図るために、ボランティアを育成する」ということを提案したい。

最初に、区の小学校や商店街、街づくり協議会などが環境活動を行うことを、区民会議として啓発・支援を行う。区の各種団体・学校にチラシの配布やアンケート調査を行い、ニーズを掘り起こして、そういうことを支援していく。ニーズの内容によっては、環境局と調整して推進、実施してはどうか。我々も出前講座などを行いたい。

2つ目が、区民会議として直接実施する活動を決めて推進する。区民にもわかるような活動形態や方法を取り、区民の参加を募って、活動の拡大や活性化を図る。具体的な活動としては、ペットボトルのキャップ回収や緑の壁作戦、携帯電話の回収など。まず区民会議として、活動の妥当性と必要なことを理解するために、具体的な調査を行ってから進めてはどうか。

3番目に、長期的なテーマとして、多摩川の浄化活動と水辺の楽校の開設が提案されている。これらの案を具体化するために、大師河原水防センターの活性化を図って、運営委員会の活動内容を調査し、その活動を具体的に支援してはどうか。

4番目に、環境活動を行う区民ボランティアを増やしていくために、環境局が毎年実施している環境リーダーの育成講座がある。川崎区民から生徒を応募するようにする。各種団体に働きかけて、将来環境活動の核として期待してはどうか。

私も環境リーダーの育成講座の卒業生。もう11期になるが、10期までの卒業生が182名いるが、川崎区からの修了生はわずか10名で5.5%にしかない。一番多いところは

幸区で17%で、約3倍だ。

最後に、CC川崎と協調して環境活動を深化するとともに、CC川崎エコ会議に区民会議として参加してはどうか。ここに入ると、市で行っている事業の内容が伝わってくるので。

部会長 ありがとうございます。いろいろ報告・提言があったが、特に出前講座は行政など専門家ではなく、環境リーダー講座を受けた市民がグループを作って行うとのこと。同じ仲間が、少し勉強したためにたまたまリーダーになったということで、そういう身近な人たちにやってもらおうと、耳を傾けやすい。今のご意見を参考にして、今後何かの形で結論を出していきたい。

戻って、課題の設定ということだが。地域緑化の推進は独立してテーマにするということが良いか。

委員 良いと思う。

部会長 あと、地域や家庭での環境意識の向上。それと、多摩川の浄化。

事務局 余り多摩川と限定してしまうと、難しいかもしれない。もう少し広くとらえたほうが良いのではないか。

委員 余り多摩川を出さないほうが良いと思う。

部会長 では、自然環境の再生か。この3つで良いか。学校や子どもに対する取組を入れて4つにするか。

委員 今話のあった出前講座もやるとなると、やはり学校も巻き込んだほうが良い。1年のうちに3校なり、協力してもらえるのではないか。

部会長 それについては解決策という形で、必ず学校や教育委員会への働きかけは出てくると思う。

では、地域緑化の推進、地域や家庭での環境意識の向上のための啓発と教育。それから自然環境の再生。この言い方で良いか。宮脇先生によると、幾ら力を入れても自然環境の再生というのは絶対ないなんて言うが。

区長 感想としては大き過ぎるかもしれない、抽象論的、観念論的では。

委員 自然環境の再生だと大き過ぎて、地域緑化の推進との区分けがわからなくなるおそれがある。

部会長 区内の川や池などの水質悪化。

牧野氏 環境保全としては。水質だけに絞られてしまう。

部会長 では、区内の川や池などの環境保全。この3つに決めて良いか。

各委員 異議なし

(2) 解決策の検討について

部会長 それでは議題の2番目で、課題の解決策の検討に移りたい。事務局から例示があるようなので説明をお願いしたい。

事務局 <資料2に沿って解決策の例示について説明>

部会長 各委員から改めてどんな解決策があるかということを検討していただきたい。今までの話の中で結構出ているが、例えば地域緑化の推進という課題について、解決策はどんなものがあるか。地域緑化の推進の解決策についてはどうか。

委員 何か新しいことをやるよりは、今までやったことや活動中の団体をうまく巻き込んで、積み上げていくことが重要だと思っている。それでこそ初めて継続性や輪の広がりができていくと思うので、緑のカーテンをもう一度大々的にやって、それを出発点に緑、花を増やす活動をしていきたい。

緑のカーテンをやる際に、ゴーヤーの品評会をやるなどして、併せて水の大切さを伝えるのはどうか。

ほかに、商店街での打ち水なども連動させて、区民の緑の日、水を大切にする日ということで1つイベントを組んで、それを契機にゴーヤー季節である夏に限らない緑化の活動を行う。種や苗を配布したり、育て方教室をするなどして、秋以降もプランターをいつも潤わせることができるということを伝える。例えば失敗した人で集まって、失敗談を話すことでこうやったら成功するのではないかと考えるなど、とにかくたくさんの人を巻き込んでいける活動にしたい。

そのPRは、もちろん区民会議委員の選出団体などを通して行う。私は、個々に活動

している地域環境リーダーに声をかけていきたいと思っている。方法としては、きれいなポスターを印刷するよりは、子どもにポスターを描いてもらって、その展示会もやったり、描いた子どもにも来てもらうという形が取れば良いと思う。

まずは一発物の企画で緑のカーテンなどを今いるメンバーで行って、さらにたくさんの人を巻き込んでいく。そこを起点に、さらに緑で潤った区にする活動を発展させていくという方向が良いと思う。

部会長 今回の意見は、ことし取り組んだゴーヤーのカーテンの取り組みがそれなりに普及し、成功に近い評価をされていることから出たと思う。これを1年限りではなく、もう少し発展させていったほうがいいのでは。

委員 おっしゃる通りだが、実際にゴーヤーの種をもらって植えても、うまくいかなかったというのがほとんど。花屋さんで苗を買ってきたゴーヤーはうまくいったと聞く。だからただ、ポスターでゴーヤーのカーテンをやろうというだけではなく、部会長はハゲイトウを種から育てた経験があるので、そういったことを具体的に伝えた方が良い。まずは学校や町会、まちづくりクラブ、花壇をつくる会などが苗まで育てて、それを一般に配布できれば一番良い。それにはお金がかかるのでできないというのなら話は別だが、そこまでできるかを検討する必要があるのではないか。そういうところまでやらないと、本当の意味での成功までにはいかないと思う。

委員 とても重要な話だと思う。

委員 土曜日に高津区で多文化フェスタというのをやったが、そこで緑のカーテンコンテストの表彰式をやっている。高津区では結構熱心で、区長表彰のような形でやって普及していつている。

委員 ゴーヤーは難しいか。去年作ったところ、放っておいたらことしまた芽が出てきた。種で渡しても大丈夫なのでは。

委員 ただ、カーテンを作るといっただけならいい。実をならそうとしないで、日差し避けのヨシズのような形ならば。

部会長 カーテンができれば、いや応なく実はなる。実が落ちるとまた翌年出るから、こっしもまいて、人にも上げた。するとやはり一つも芽が出ない人もいる。

委員 実がなれば、緑カーテンも一生懸命やる気になる。

部会長 他に緑の関係で解決策の提案は。

委員 私の地域は県立川崎高校がある。その周りを全部花で飾ろうということで、町会と学校で、周り全部に花を置いている。ケイトウが一番良いと思った。ずっともっている。学校の中に環境部会というのがあり、生徒たちもプランターに植えている。

委員 先生になっていただけるのでは。学校に行って話をしてもらおうなどできる。

委員 私たちはただ一緒にやっているだけだが。今度はぜひ部会長に講師になってもらって、ケイトウについて教えてもらおうかと考えている。

部会長 川崎高校には熱心な先生がいる。学校の場合は、熱心な先生がいなくなるとだめになってしまう。ビオトープを作ったときもそう。熱心だった先生がいなくなったら途端にだめ。それこそ蚊の問題が出てしまう。
ほかに何かあるか。

委員 先ほど発言があったように、樹木に取り組んでいるグループ、花壇をやっているグループなど、川崎区内のグループを調べておく必要もあるかもしれない。

部会長 川崎区には、公園愛護会というのがある。あとは街路の管理は、やると幾らかもらえるからと、老人クラブがやったりしている。高津区や宮前区のように純然たる花や緑のグループは、川崎区は案外少ない。

委員 財団法人川崎市公園緑地協会というのがあり、そこが主催になっていろいろな緑化を進めている。

委員 緑のカーテンはマンションでもできるのか。

部会長 できる。海風の森をMAZUつくる会のメンバーは、マンションにカーテンを作って日除けをしながらゴーヤーが何十個と取れた。同じところでハゲイトウも作った。

区長 ことし個人的にゴーヤーを何本かやったのだが、相当伸びる。マンションの場合は、ご近所、上や横の階の人に迷惑をかけないように相当注意しないとイケない。

委員 川崎区はマンションが多い。大きいマンションが増えているし、マンションに住んでいる人が各ご家庭の個人のベランダでやったらどうなることか。

区長 緑化の考え方だと思う。やる人はゴーヤーでもいいし、いろいろな素材があつていいと思う。

事務局 最近ゴーヤーがブームになっているが、それぞれの住環境があるので、それに合わせて緑を増やしていけばいいのでは。実際に草花や樹木を手入れする際の講座のようなものがあっても良いのでは。

委員 高津区で表彰された人に、その実績をお話ししてもらうのはどうか。身近な話として聞けるので、また周りを巻き込んでいける。全く新しいことを始めるより、例えばゴーヤーだったら、こういう人たちに教えてもらえよと。ゴーヤーはちょっとという人は、こういうのもあるよという提案をしていくのはどうか。

部会長 高津区では、アサガオを勧めている。もしやるとすれば、自分の好きなものでいい。ヘチマやキュウリなど。ミニトマトなんか、水だけで何百個ととれるそうだが、役所でいろいろな種をそろえておくのは難しい部分があるのだろう。

今解決策について、3つあるうちの1つに取りかかったところ。次回、解決策の検討から、今度は実行計画に一步入るぐらいまで行きたい。

ただ、川崎区に対するイメージという話もあったが、課題はみんな共通なので、今までの2回の議論の中でもう次の解決策や実行計画に近いところまで意見が出ている。次回は実行計画を中心に議論をしたい。

3 閉 会

事務局 <専門部会の日程調整、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

午後 8時 8分 閉 会